

お知らせ:次回発信日は2月13日週報(予定)

Jミルクが2026年1月30日に公表した「需給見通し(※2025年11月迄実績)」の予測値と直近の実績値(牛乳乳製品統計)をグラフ化しています。

「牛乳乳製品統計(農林水産省)」の公表に併せて、今後も毎月配信していきます。

発行:一般社団法人Jミルク生産流通グループ

【12月の統計実績】

● 生乳生産量

全国が、前年同月比±0.0%(日均量、以下同)となり、3カ月ぶりに前年割れから転じた。地域別では、北海道が+0.3%と3カ月ぶりに前年水準を上回り、都府県は▲0.4%と4カ月連続で前年水準を下回ったものの前月から減少幅が縮小した。指定団体受託乳量(速報)は、北海道(ホクレン)が1月上旬に4旬ぶりに前年水準を下回り、1月下旬まで前年割れが継続している。都府県では、10月上旬から11旬連続で前年水準を下回っている。

● 牛乳等生産量

牛乳の生産量は、前年同月比▲1.3%と5カ月連続で前年水準を下回った。牛乳以外の品目についても消費は伸び悩み、成分調整牛乳は6カ月連続、加工乳は5カ月連続、乳飲料も5カ月連続で前年水準を下回った。この結果、牛乳類全体としては5カ月連続で前年割れとなった。発酵乳については、3カ月ぶりに前年水準を上回った。この結果、生乳の飲用等向処理量は、前年同月比▲1.3%と5カ月連続で前年水準を下回った一方、乳製品向けは+1.2%と17カ月連続で前年水準を上回った。

● 乳製品需給

脱脂粉乳は、生産量が15.1千トン、推定出回り量は10.6千トンと需要量が供給量を下回った結果、在庫量は前月から4.5千トン増加し、月末在庫量は70.6千トン(前年同月比+39.8%)と13カ月連続で前年水準を上回った。在庫量が60千トンを超えるのは7カ月連続、70千トンを超えるのは2023年2月以来、34カ月ぶりとなる。バターの生産量は7.1千トン、推定出回り量が9.1千トン、輸入売渡数量が1.2千トンとなり、需要量が供給量を上回った結果、在庫量は0.8千トン減少して29.2千トンとなった。在庫量は16カ月連続で前年水準を上回っている。

【1月および1/26週の販売動向データ】

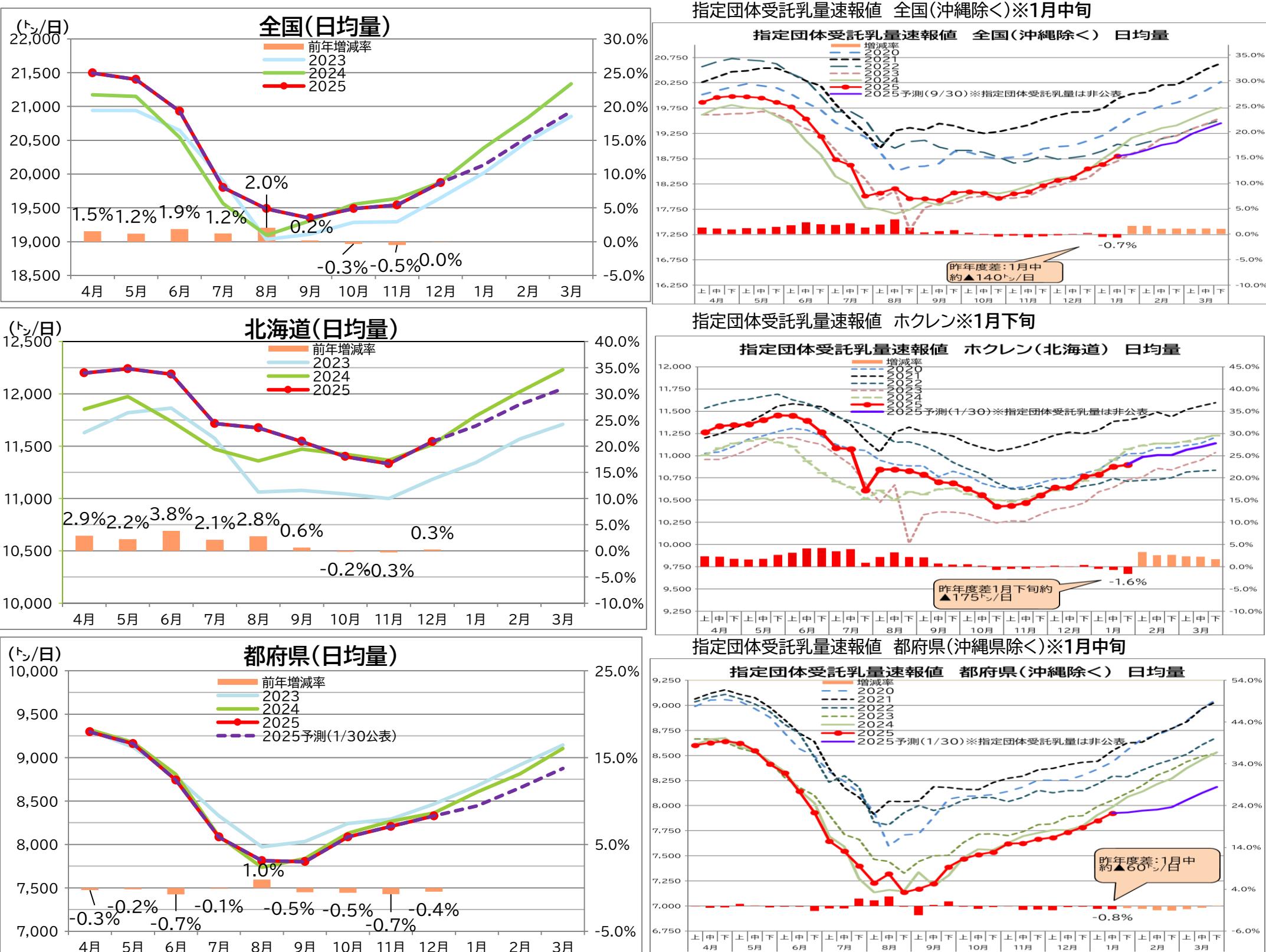
- 1月の牛乳類トータルの販売個数は、19カ月連続で前年水準を下回った。内訳を見ると、牛乳の販売個数は6カ月ぶりに前年割れを回避したもの、その他の3品目はいずれも前年水準を下回った。牛乳の平均販売単価はほぼ横ばいで、販売業態別に見ても同様の傾向が確認された。直近週(1/26週)では、牛乳類トータルの販売個数が2週連続で前年割れとなり、前週から減少幅が拡大した。地域別に見ると、5週ぶりに全ての地域で前年水準を下回った。
- 発酵乳の1/26週の合計販売数量は、個数ベース・容量ベースともに前年水準を下回った。内訳を見ると、ドリンクタイプが9週連続、個食タイプは45週連続で前年割れとなったものの、大容量タイプは7週連続で前年水準を上回った。
- 家庭用バターの1/26週の販売個数は、6週ぶりに前年水準を下回った。家庭用バターの販売個数は、例年2月に販売のピークを迎えることから、今後の動向が注目される。

【生乳生産量】※増減率は、日均量で算出。

(1)12月の生乳生産量は、全国616.0千トン(前年同月比100.0%)、北海道357.9千トン(同100.3%)、都府県258.2千トン(同99.6%)。

(2)9月30日に公表したJミルク予測値(全国612.3千トン、北海道355.0千トン、都府県257.3千トン)との比較は北海道、都府県ともに上振れした。

(3)直近の指定団体受託乳量速報値は全国が1月中旬(最新、以下同)で同99.3%、都府県(沖縄除く)が同99.2%、北海道は1月下旬で同98.4%となった。

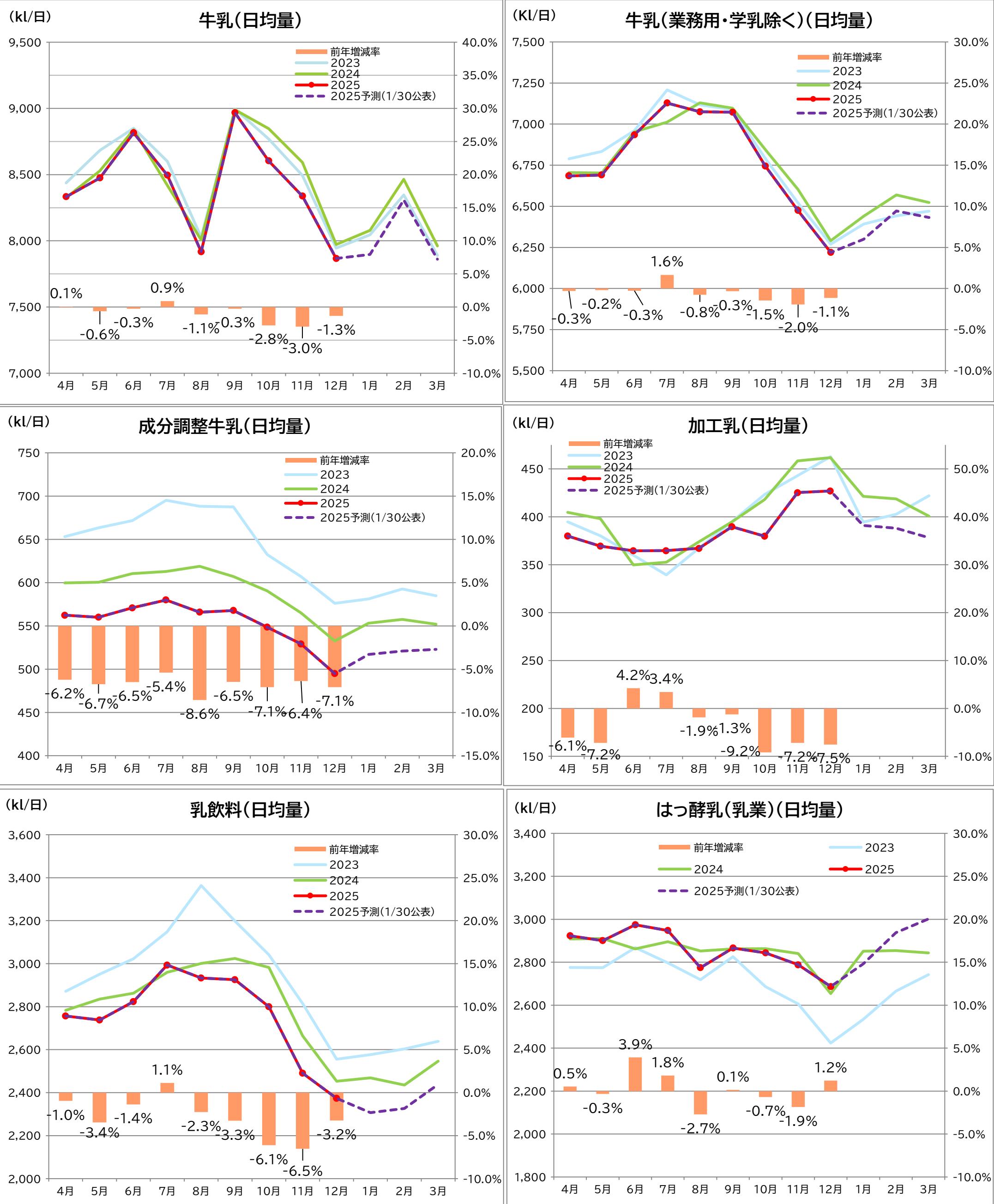


【牛乳等生産量】※増減率は、日均量で算出。

(1)12月の牛乳等生産量は、牛乳243.9千kl(前年同月比98.7%)、成分調整牛乳15.3千kl(同92.9%)、加工乳13.2千kl(同92.5%)、乳飲料73.6千kl(同96.8%)。牛乳類合計(牛乳・成分調整牛乳・加工乳・乳飲料)では、346.0千kl(同97.7%)となり、5ヶ月連続で前年を下回った。

(2)「牛乳」のうち、「業務用以外」は、同98.9%、「業務用」は同93.3%、「学乳」は102.1%。

(3)はつ酵乳(乳業)は83.3千kl(同101.2%)、はつ酵乳(非乳業:11月実績)は96.7%となった。

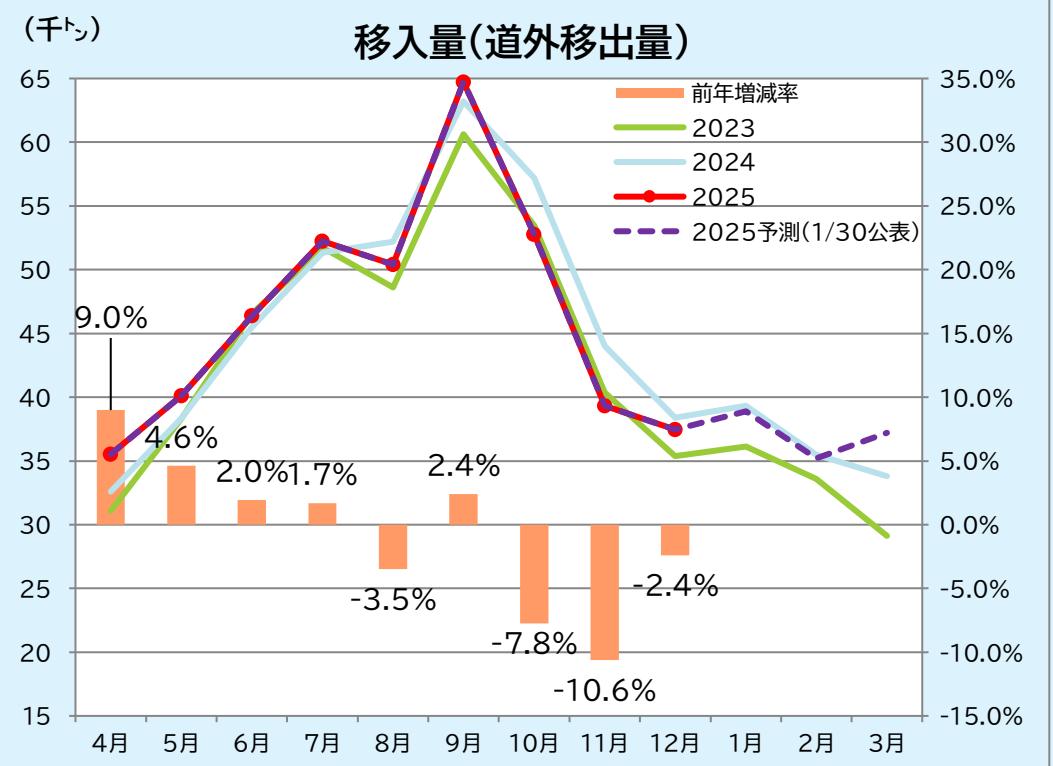
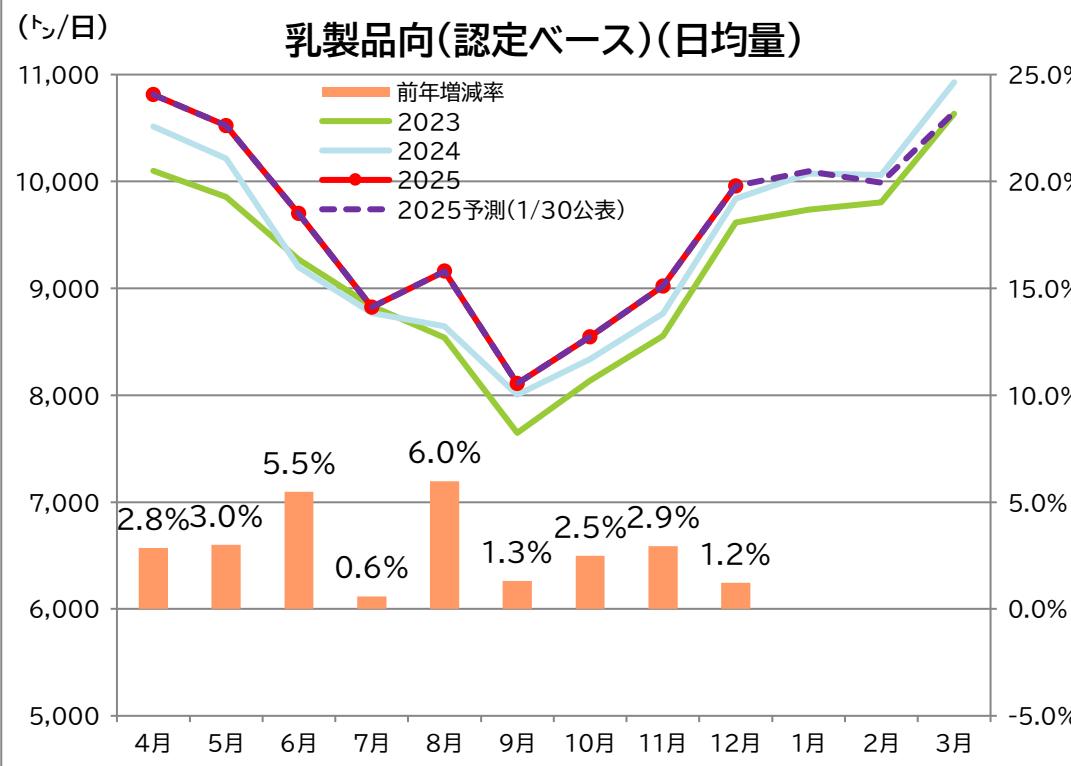
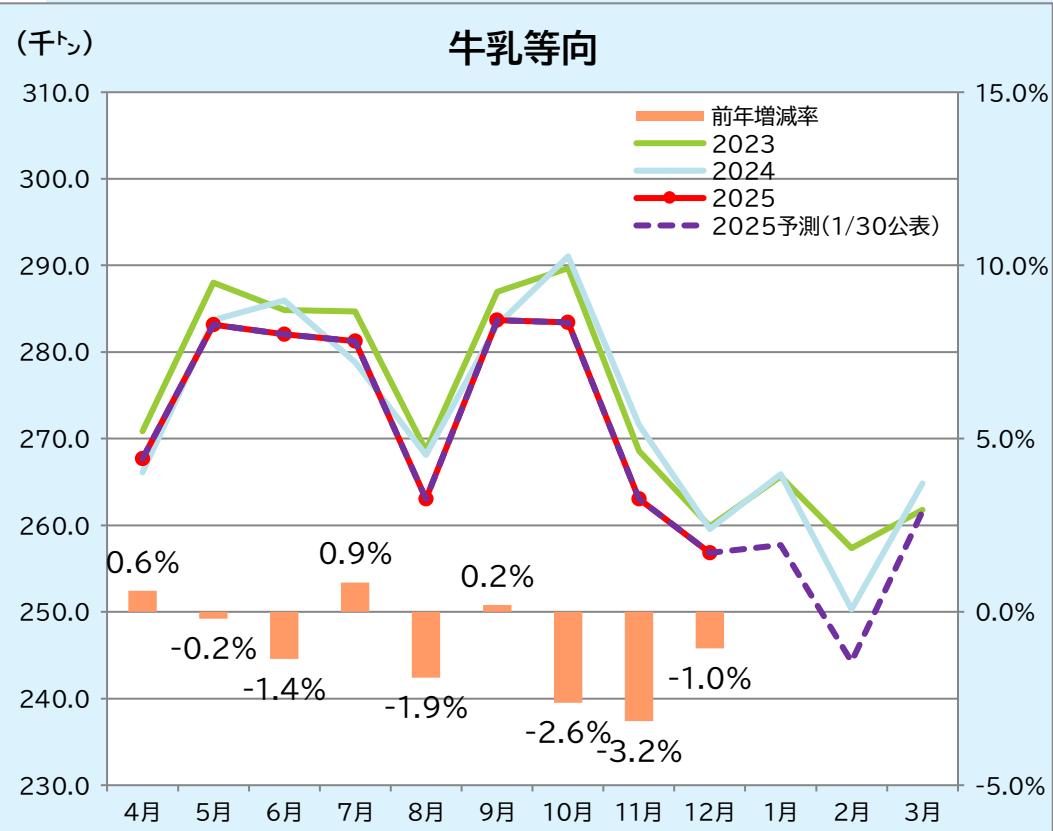
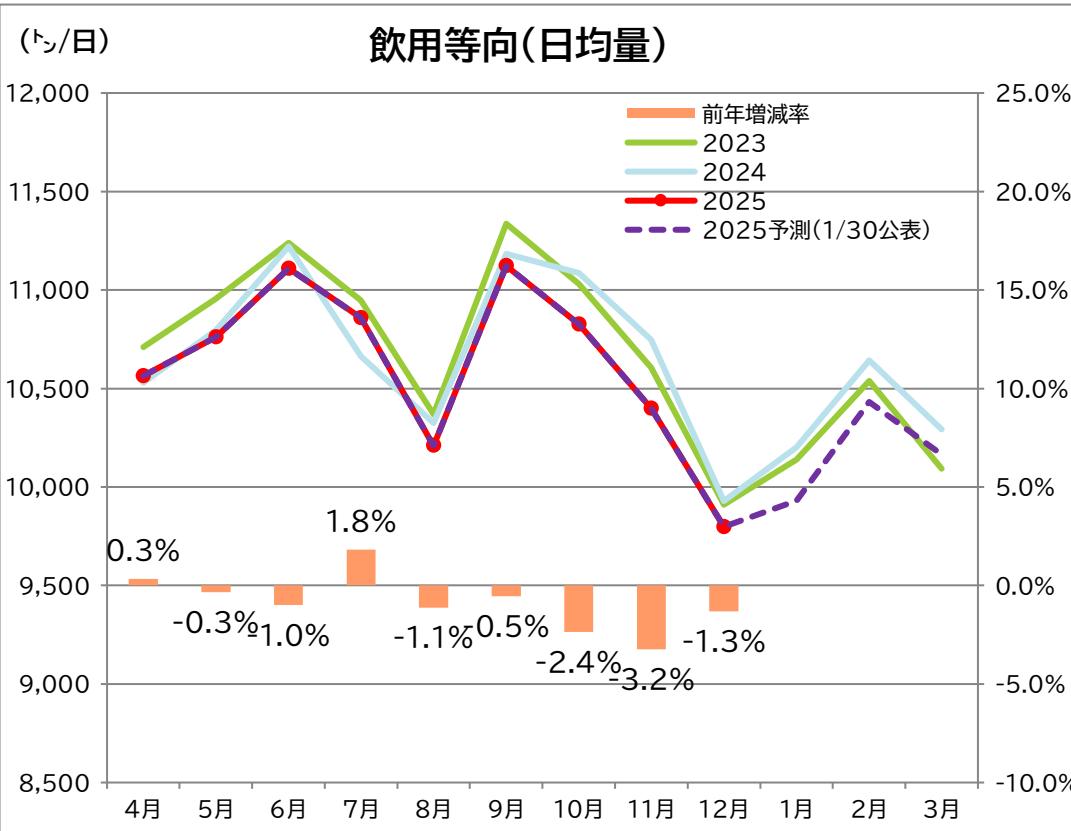
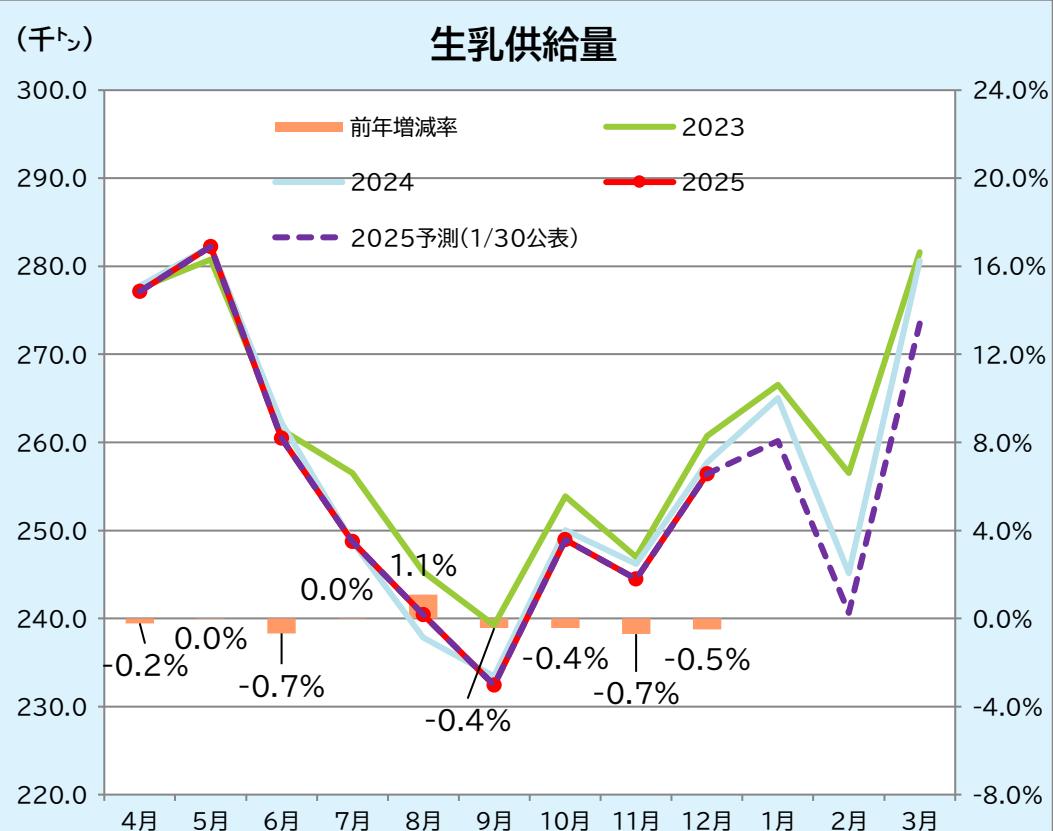
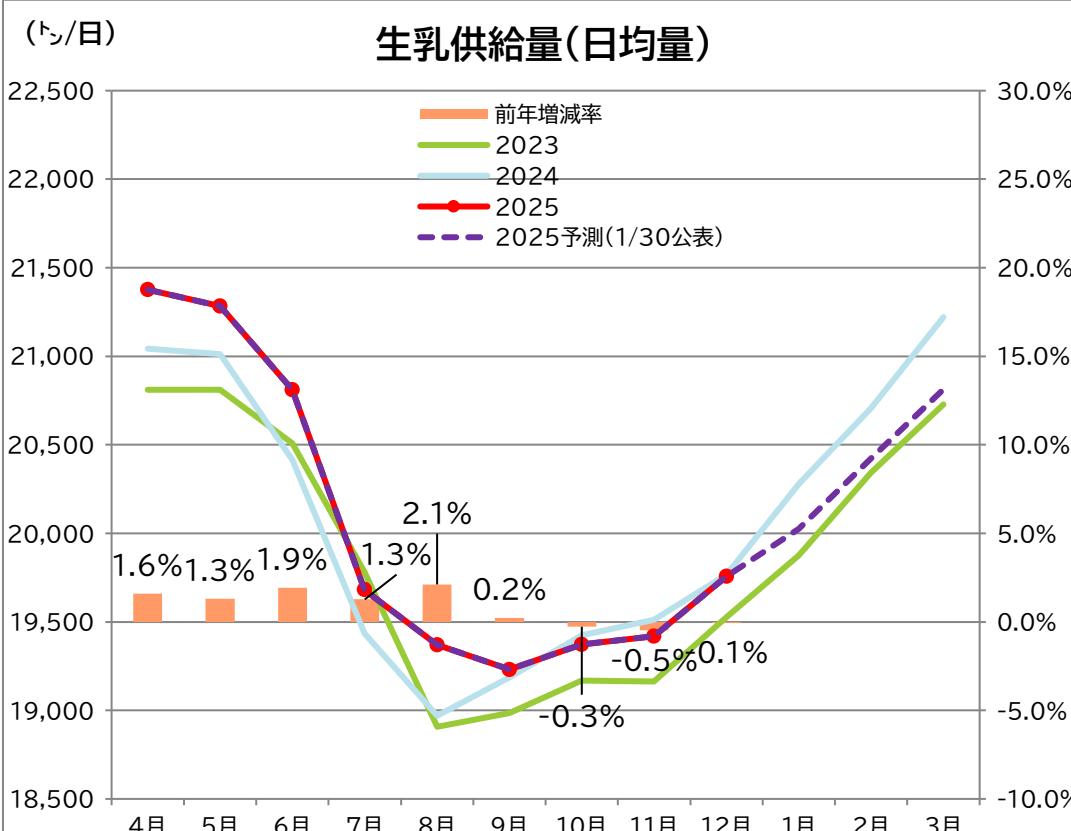


【用途別処理量(全国)】※増減率は、日均量で算出。

(1)12月の生乳供給量は612.5千トン(前年同月比99.9%)、飲用等向303.8千トン(同98.7%)、乳製品向(認定ベース)308.7千トン(同101.2%)。
 (2)飲用等向が5か月連続で前年を下回り、生乳供給量が3か月連続で前年を下回った結果、乳製品向は17か月連続で前年を上回った。
 (3)9月30日に公表した予測値との比較では、生乳供給量(予測値:608.9千トン)はやや上振れ、飲用等向(予測値:302.0千トン)はやや下振れ、乳製品向(予測値:306.8千トン)は上振れとなった。

【都府県の生乳需給】

(1)12月は、生乳供給量256.4千トン(前年同月比99.5%)、牛乳等向256.8千トン(同99.0%)。
 (2)北海道からの移入量については37.5千トン(同97.6%)と前年を下回った。
 (3)9月30日に公表した予測値との比較では、生乳供給量(予測値:255.8千トン)は上振れ、牛乳等向(予測値:253.7千トン)は上振れ、移入量(予測値:38.2千トン)は下振れとなった。



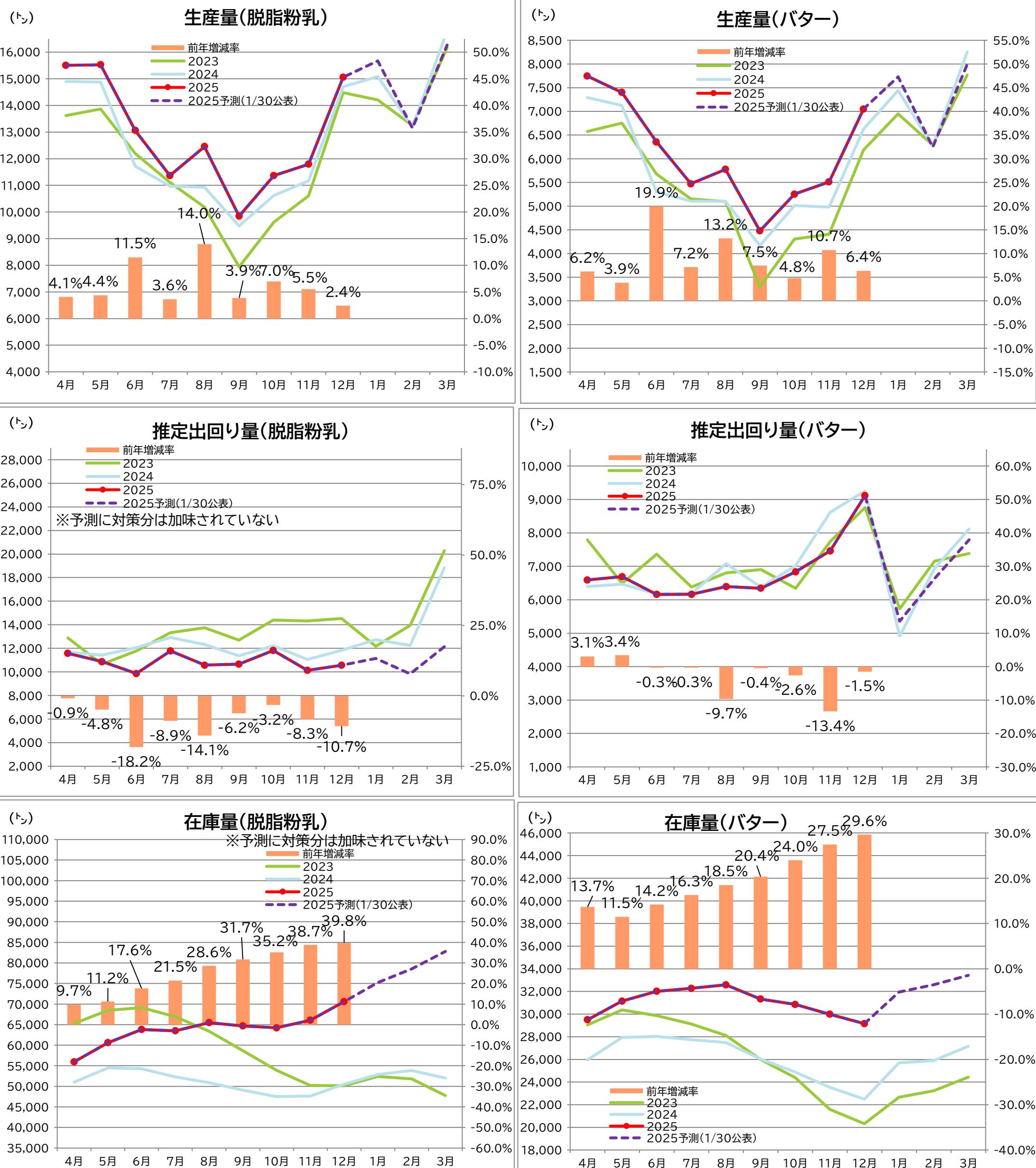
【脱脂粉乳・バターの需給】

(1)脱脂粉乳について12月の生産量は15.1千トン(前年同月102.4%)、推定出回り量は10.6千トン(同89.3%)となった。出回り量が生産量を下回り在庫量は前月から4.5千トン程度増加し、70.6千トン(同139.8%)となった。在庫量は2024年12月、約2年3カ月ぶりに前年水準を上回り、13カ月連続で前年水準超えで推移している。在庫量が7万トンを上回るのは、2023年2月以来、34カ月ぶりとなる。

※なお、推定出回り量の実績について、前年度の実績から在庫対策を差し引いた数量との比較は99.5%。

(2)バターについて、12月の生産量は7.1千トン(同106.4%)、推定出回り量は9.1千トン(同98.5%)となった。国家貿易による輸入壳渡分(約1.2千トン)も考慮すると在庫量は前月から約0.8千トン減少し29.2千トン(同129.6%)となった。在庫量は16カ月連続で前年超え。

→脱脂粉乳とバターの需要のアンバランスが表面化するなか、飲用需要が低調に推移している。脱脂粉乳は、積み増しを避けるべく需要拡大や理解醸成活動による消費の底上げを図る必要がある。バターは、消費動向を注視し、国家貿易による対応も含めて需要に対応した安定供給に努める必要がある。



【牛乳類の販売速報(推定値):インテージSRI+】※量販店・コンビニ等、小売店の販売実績

(1)1月の動向(表①参照)

・販売個数は、牛乳:前年同月比100.0%、成分調整牛乳:同90.5%、加工乳:同95.0%、乳飲料:同93.3%。牛乳類全体:同98.3%

【参考】2024年1月比…牛乳:98.8%、成分調整牛乳:87.3%、加工乳:83.7%、乳飲料:87.3%(牛乳類トータル:96.0%)

(2)直近の週次動向(表②・グラフ参照)

・直近(1/26)の販売個数は、牛乳:前年同期比98.8%、成分調整牛乳:同88.3%、加工乳:同92.4%、乳飲料:同92.8%。牛乳類トータルでは同96.0%

出典 (株)インテージSRI+週データ。販売本数、販売単価(税抜)については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

【表① 牛乳類の月別販売動向】

単位:千個、円

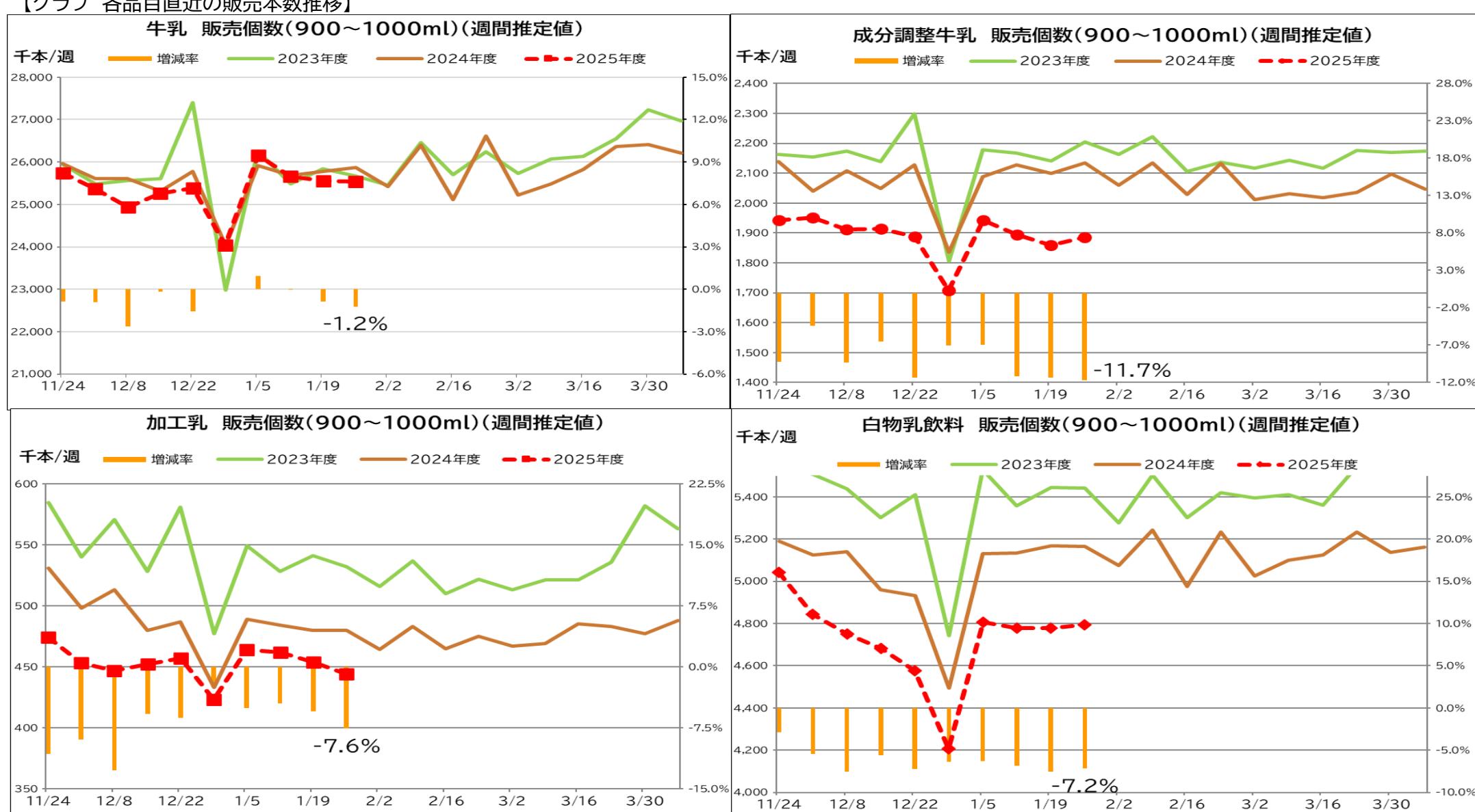
品目	区分	2025/8-	2025/9-	2025/10-	2025/11-	2025/12-	2026/1-	2026/1- 2022/10価格差	2026/1- 2023/3価格差	2026/1- 2023/7価格差	2026/1- 2025/7価格差
トータル	販売個数	172,469	161,532	155,995	144,208	145,307	140,048	43.1	28.0	26.2	9.9
	販売個数前年比	98.4	97.3	96.8	98.0	97.0	98.3				
	販売単価	225.3	226.0	226.0	225.6	226.3	226.2				
牛乳	販売個数	134,237	124,875	120,635	111,759	113,669	109,701	44.9	28.6	27.8	10.0
	販売個数前年比	99.2	98.0	97.6	99.1	98.3	100.0				
	販売単価	234.2	235.3	235.3	234.8	235.0	235.1				
成分調整牛乳	販売個数	9,690	9,194	9,035	8,527	8,590	8,035	44.0	28.4	24.8	11.1
	販売個数前年比	92.4	91.6	89.2	92.2	91.9	90.5				
	販売単価	217.3	218.2	216.9	216.2	216.1	217.2				
加工乳	販売個数	2,336	2,221	2,154	2,059	2,034	1,947	38.9	29.2	19.0	7.5
	販売個数前年比	90.5	91.9	92.7	95.2	90.0	95.0				
	販売単価	233.4	233.5	231.5	228.0	231.3	230.8				
乳飲料	販売個数	26,206	25,243	24,170	21,863	21,014	20,366	32.3	21.7	18.0	8.2
	販売個数前年比	97.8	96.7	96.7	95.4	93.0	93.3				
	販売単価	179.8	180.3	180.8	179.9	182.7	181.8				

速報値

【表② 牛乳類の販売動向(直近の週次動向)】

品目	区分	12.08-	12.15-	12.22-	12.29-	1.5-	1.12-	1.19-	1.26-	26.1.26- 22.10.24 価格差	26.1.26- 23.3.20 価格差	26.1.26- 23.7.24 価格差	26.1.26- 25.7.21 価格差
トータル	販売個数	32,046	32,310	32,297	30,380	33,375	32,801	32,647	32,668	42.7	27.8	25.4	9.4
	販売個数前年比	96.0	98.5	96.9	98.7	99.2	98.1	97.4	97.1				
	販売単価	225.6	225.8	227.2	227.9	226.3	226.1	225.7	225.9				
牛乳	販売個数	24,936	25,260	25,378	24,045	26,161	25,667	25,557	25,544	44.4	28.1	26.9	9.4
	販売個数前年比	97.4	99.8	98.4	100.1	100.9	100.0	99.1	98.8				
	販売単価	234.7	234.4	235.7	236.5	234.9	234.8	234.5	234.7				
成分調整牛乳	販売個数	1,911	1,915	1,887	1,707	1,943	1,894	1,860	1,885	43.5	28.7	23.8	10.6
	販売個数前年比	90.7	93.5	88.7	92.9	93.1	88.9	88.6	88.3				
	販売単価	215.4	216.1	217.4	217.5	217.3	217.0	217.1	216.8				
加工乳	販売個数	447	452	457	423	464	462	454	444	37.9	28.5	18.6	6.3
	販売個数前年比	87.2	94.1	93.8	97.5	94.9	95.5	94.5	92.4				
	販売単価	230.6	230.6	231.5	232.3	231.8	231.1	229.9	232.1				
乳飲料	販売個数	4,751	4,683	4,575	4,206	4,807	4,778	4,777	4,795	31.7	21.8	16.9	7.2
	販売個数前年比	92.4	94.4	92.8	93.6	93.7	93.1	92.4	92.8				
	販売単価	182.0	182.8	183.4	182.0	182.2	182.0	181.5	182.2				

【グラフ 各品目直近の販売本数推移】



【ヨーグルト類の販売速報(推定値):インテージSRI+】

(1)直近の週次動向(表⑤参照)

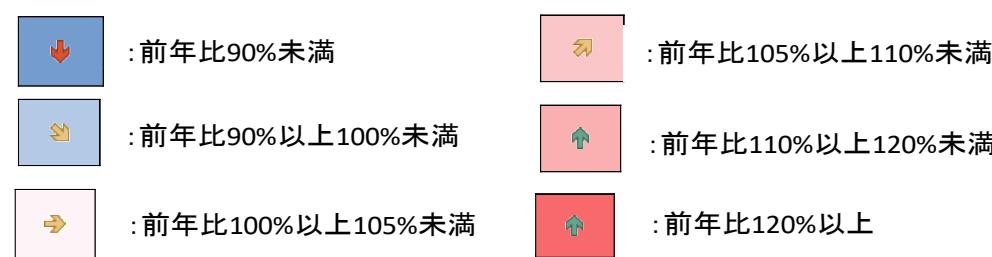
直近(1/26週)の販売個数は、ドリンクタイプ(90~250ml):前年同期比90%以上、個食タイプ(70~130ml):同90%以上、大容量タイプ (350~500ml):同100%以上。はつ酵乳全体としては、前年を下回った。(3品目合計販売個数は前年同期比90%以上、合計販売容量は同90%以上)。

(2)販売個数について、前週(1/19週)との比較では、3品目いずれも増加した。

※出典 株インテージSRI+週データ。販売個数については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

【表⑤ ヨーグルト類の販売動向】

品目	12.8- 12.15- 12.22- 12.29- 1.5- 1.12- 1.19- 2.26-
ドリンクタイプ	↓
個食タイプ	↓
大容量タイプ	↓ ↗

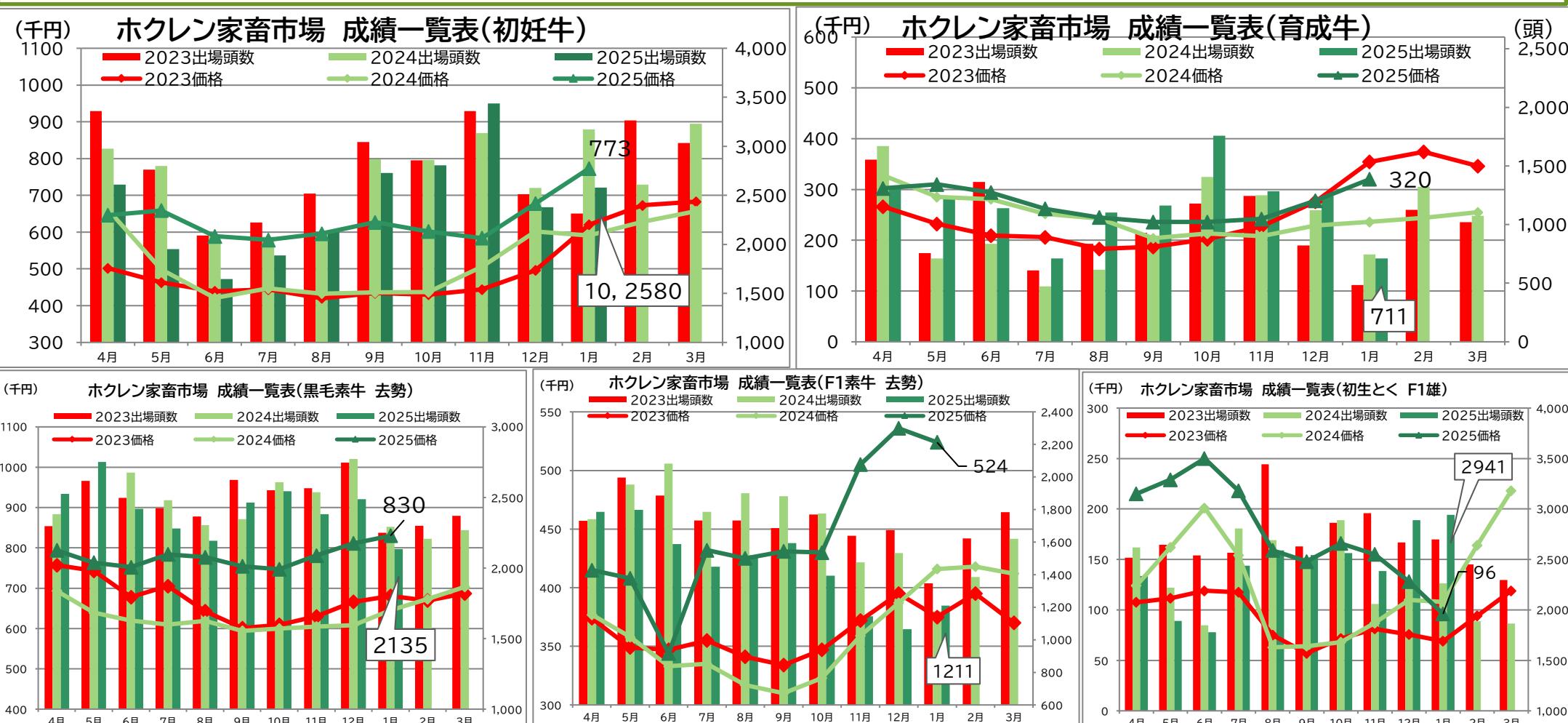


※なお、下地の色が濃いほうが、上記範囲内で前年との増減差が大きいことを表す。

【家畜販売価格動向(税込)】

(1)1月の家畜販売価格動向について、ホクレン家畜市場集計によると、初妊牛価格は773千円(前年同期比130.8%)、育成牛価格は320千円(同135.6%)、和牛素牛(去勢)価格830千円(同128.7%)、F1素牛(去勢)価格は524千円(同126.0%)。初妊牛は2021年5月以来、56か月ぶりに70万円台に上昇、育成牛は8カ月ぶりに30万円台に上昇した。ホル初生(雄)価格は64千円(同219.4%)と、6か月連続で前年比2倍の水準を上回った(グラフ無し)。

(2)出場頭数(出回り頭数)は、初妊牛:同81.3%、育成牛:同95.4%、F1初生(雄):同130.0%、和牛素牛(去勢):同93.2%、F1素牛(去勢):同103.0%。

※ホクレン家畜市場集計表 速報値(<https://www.kachiku.hokuren.or.jp/Downloadresult.aspx>)

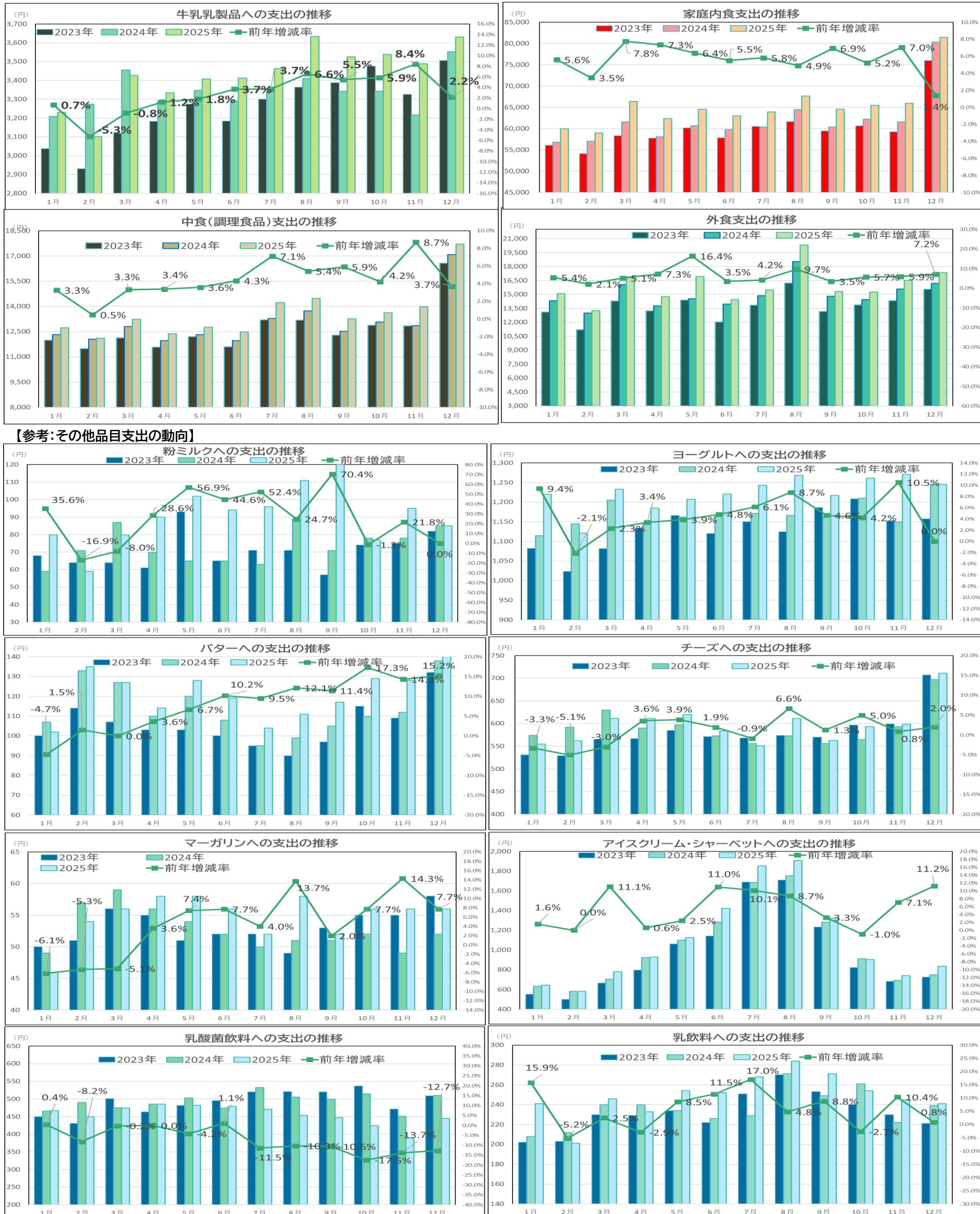
【家計支出の動向】

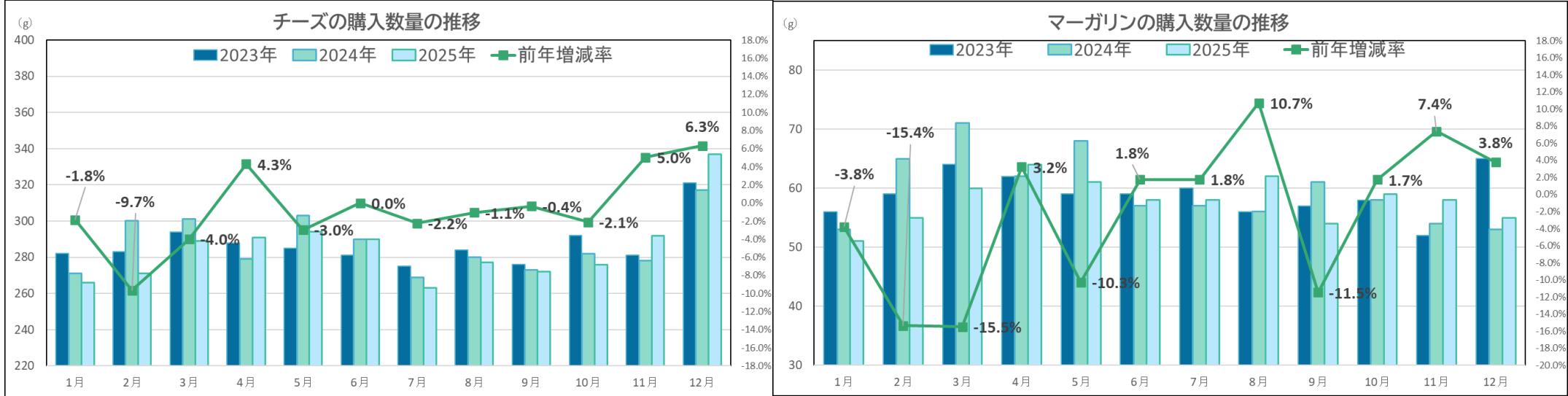
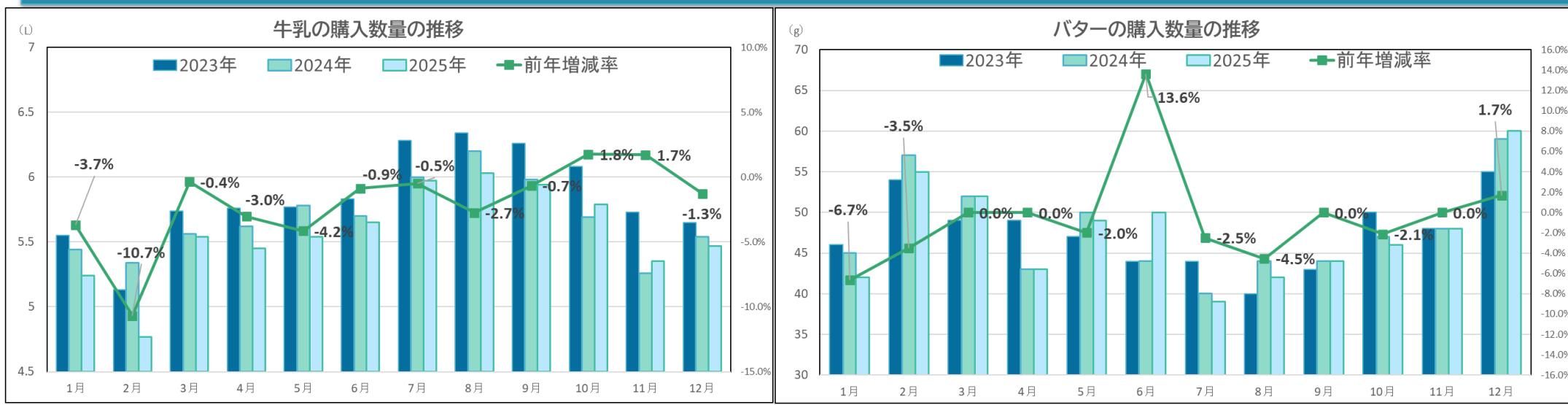
(1)12月の支出額前年比について、外食107.2%、中食103.7%、内食101.4%といずれも前年を上回り、食料全体への支出額は102.6%となった。

(2)牛乳乳製品の支出額も前年比102.2%(うち牛乳102.9%、乳製品101.8%)と8カ月連続で前年を上回った。

(3)なお、購入量は、牛乳98.7%(1世帯当たり5.5リッタ)と3か月ぶりに前年割れ。バターは2カ月連続で前年超え、チーズも2カ月連続で前年超えとなった。

※総務省家計調査(二人以上の世帯。家庭内食は、食料-調理食品-外食で独自に算出)





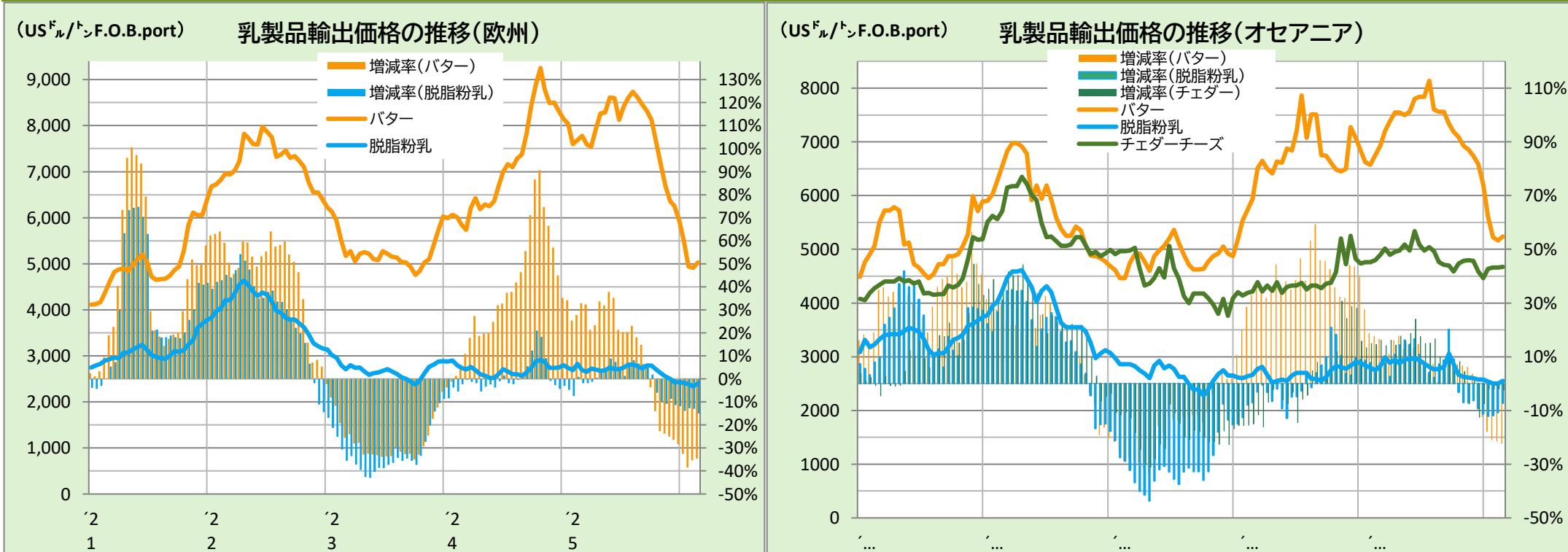
【乳製品輸出価格の動向】

(1)直近の乳製品国際相場について(1月下旬)

・欧州:脱脂粉乳2,400ドル/トン、バター5,025ドル/トン中心。

・オセアニア:脱脂粉乳2,550ドル/トン、バター5,238ドル/トン、チeddarチーズは4,675ドル/トン中心

バターは約半年ぶりに、前旬から価格が上昇した。



※「2025年度国産牛乳乳製品の需要拡大等事業 独立行政法人農畜産業振興機構 後援」